

中学生の「税についての作文」

大川税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

「公平に」がモットー

大川市立大川桐英中学校

三年 武下 千華

税金がどうして必要なのかと思ったことはあるだろうか。私の頭には、何度も浮かぶ問だ。だから、税について調べた。そして、税制度がある意義を理解できた。私は、税制度が社会に必要な制度だと思う。

そう思う理由は、税金が人々の暮らしを支えていると思ったからだ。みなさんは、社会保障というものを知っているだろうか。例を挙げるなら、国民年金や医療費などだ。国民年金は、六十五歳以上の仕事を引退した人に一ヶ月、六万五千円が入金されている。この内半分は国が負担し、もう半分が税金である。また、医療費は、自己負担が小さくされている。現役世代と呼ばれる、まだ働いている人は三割を自己負担する。高齢者は、一割または二割を負担している。残りの医療費は税金で賄われている。これらの他にも、妊婦さんや新生児を支んだ親を支える仕組みも社会保障である。人々の暮らしを支える社会保障の数々は、税金で成り立っていることが分かる。社会保障は、この世の中に必要不可欠のため、その仕組みを成立させている税制度も必要なのだ。ただ、不公平な制度なら誰も賛同しない。そのため、国は公平な税制度の

実現に尽力している。公平な税制度の例は累進課税だと思う。累進課税とは、所得が多くなるに従って税率が段階的に高くなるものだ。また、消費税は、同じ物を買えば、全員がプラス十パーセントの税を払い平等であると言えるだろう。このようにその金額の何割かで税金を払うことは、公平な税制度と言えると思う。

私は、ここまで挙げた理由から税制度がなくてはならないもので「公平」な制度の実現に近づいていると思う。税制度は、「公平」がモットーである。国民全員で平等に負担し、生活の不平等をなくそうとしている。公平な社会の実現のための税金の使い道を決めるのは、国民による選挙で選ばれている国会議員である。わたしたちは、十八歳で選挙権を持ち、誰かに投票することができる。投票した方が当選したのなら、議員が税負担の方法や税金の使い道を決めているのだから、間接的に自分でそれらを決めたことになる。だからみなさんに、税金が社会でどのような役割りを担っているのかを知って欲しい。私は今まで、その役割りが分からなかったから税制度に批判的で最初に述べた、税金がどうして必要なのかという思いもあった。しかし今回、税金について多くのことを知ったから、賛同できるようになった。中学生には、直接的に税金の使い道と関わる機会は少ない。だから、よく知らないという人も多いはずだ。だからこそ、こういう機会にぜひ知ろう、調べてみようという行動を起こしてみてもらいたい。私は、税金の仕組みがより良くなって、いつか、国民全員の暮らしが平等で豊かなものになることを願っている。